北たくに国に 殺林の中果てる事なく ・ なかは こと 0) 荒れ ルズ吹雪に ないぶき

痛^ぃま

うく 懐 も

いの残る

部^ 屋*

の壁崩れ落ちて

昔かし

から点る燈火

年月に傾い

愁と理想を胸

爽やかに寮友は去り行く

夜を徴っ 御互に語った部屋に し未来の事を

思ないで

の言葉を残し

かしい恵迪寮を

我々の恵迪寮の 今はもう細くなり行く

思い見て新な燈火 心有る寮友よ絶やさず への残い した燈火

何時迄も恵迪寮にいっまで、けいてきりょう 点そう絶やす事なく

今こそ探し求めて

石 兀 辻 毅 君 İΠ 徹 君 作 作 Ж 詇